

第4章

環境を守り 人と自然が共存するまち （環境）



秩父の森が育む水

政策1 自然環境との共存

現状と課題

- 豊かな自然に恵まれた秩父市にとって、自然環境を保全していくことは重要な課題です。
- 森林浴や登山、環境教育など、幅広い森林の活用方法が望まれている一方、森林整備の難しさから特に人工林の高齢級化が進んでいます。
- 2050年「ゼロカーボンシティ」実現に向け、効果的な脱炭素施策を推進していく必要があります。

現況データ

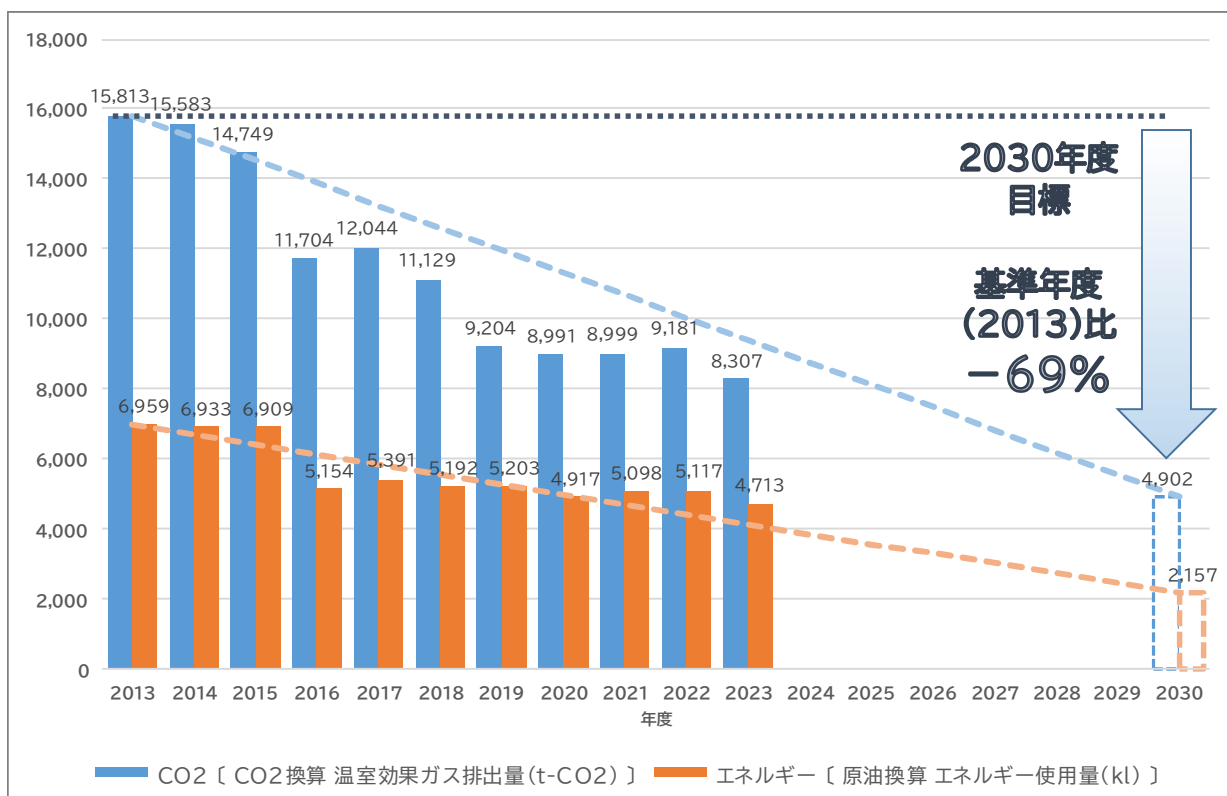


図11 秩父市役所の温室効果ガス排出量とエネルギー使用量推移

施策の方向性



(1) 自然環境保全活動の推進

- 生態系を保護するため、特定外来生物の防除や有害鳥獣の捕獲等に関する取組を行っていきます。
- 荒川の最上流域であることを意識し、流域の自治体や国、企業や団体と連携しながら流域治水に資する森林環境を整備・保全するほか、秩父の森林が生み出す綺麗な水や産品を生かした取組を行っていきます。
- 環境団体と行政とが共通認識を持ち活動できるよう、連携を図っていきます。
- 甲武信ユネスコエコパークの認知度を高め、豊かな生態系や生物多様性の保全を行います。

(2) 地球温暖化対策の推進

- 秩父新電力株式会社等と連携し、再生可能エネルギーの地産地消に取り組みます。
- 太陽光発電設備の導入、照明のLED化等、公共施設の省CO2に取り組みます。
- ゼロカーボンシティ実現のため、温室効果ガス削減に向けた効果的な事業に取り組みます。

施策の目標値

達成指標	現状実績	R8	R9	R10	R11 目標
秩父市役所温室効果ガス削減量(%) (2013年度比) ※R12(2030)年度 69%目標	47% (R5)	61%	63%	65%	67%
市有施設への 太陽光発電設備導入容量(kW) ※R6以降の導入容量累計値	199kW (R6)	425kW	575kW	750kW	925kW

政策2 生活環境の整備

現状と課題

- ごみの不法投棄が後を絶たないため、効果的な対策を実施する必要があります。
- 騒音、野外焼却などの生活型公害に関する相談や苦情が多く寄せられているため、それらを未然に防止する必要があります。
- 聖地公園墓地は、墓所の返還が増え、緩やかに利用者数が減少しています。

現況データ

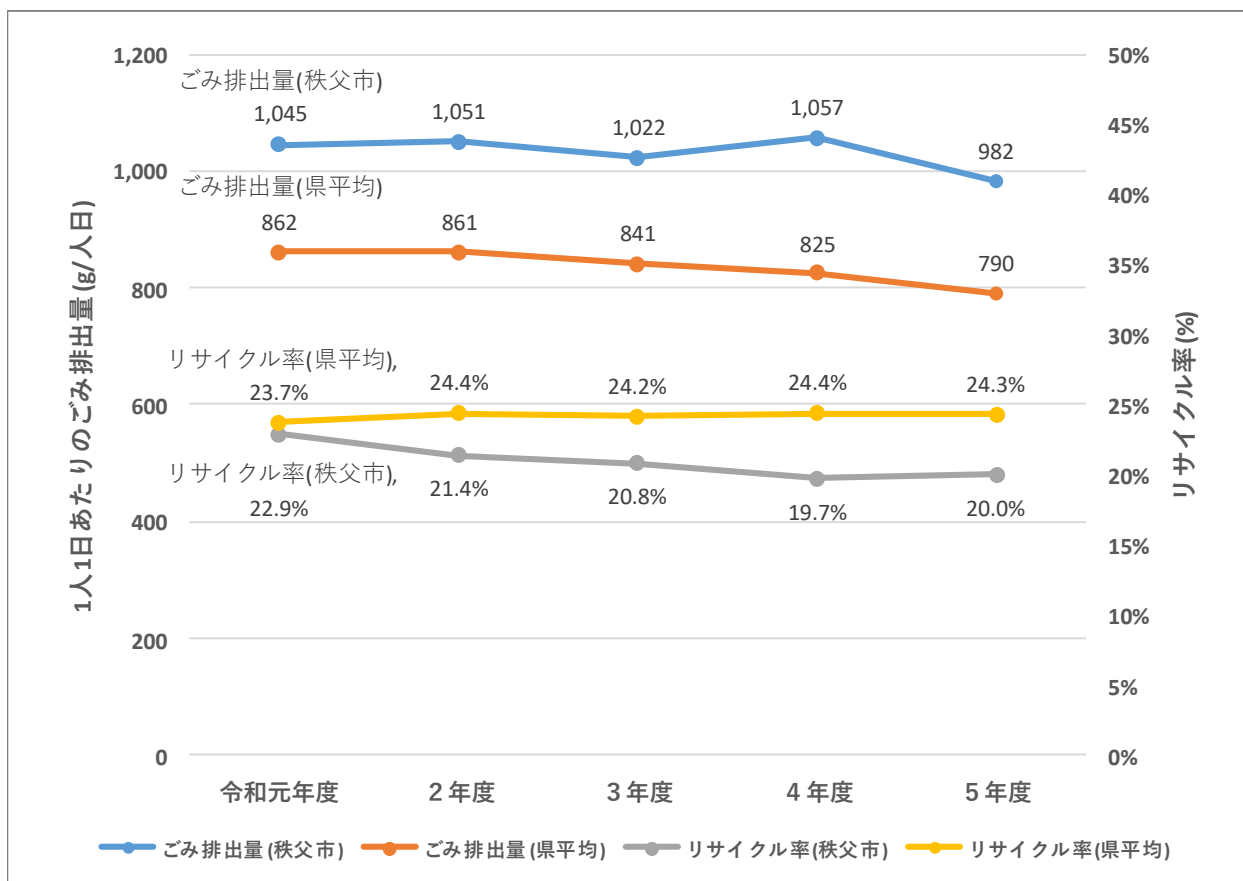


図12 1人1日あたりのごみ排出量(g)とリサイクル率の推移

施策の方向性



(1)ごみ対策の推進

- 不法投棄に対しては、パトロールに加え、監視カメラの設置など効果的な対策を実施します。
- 秩父広域市町村圏組合と連携し、ごみの分別及び適正処理の啓発を継続していきます。

(2)生活環境保全対策の推進

- 生活型公害を防止するため、広報誌やホームページでの周知などを通じて、市民一人ひとりが配慮ある行動をとれるよう啓発を行います。

(3)衛生対策の推進

- 安心安全な市民生活を確保するため、狂犬病の予防注射接種率向上に向けた啓発や害虫対策を行います。
- 聖地公園の墓地に関しては、ニーズを調査し、時代に合った墓地の整備に取り組みます。

施策の目標値

達成指標	現状実績	R8	R9	R10	R11 目標
1人1日当たりのごみ排出量(g)	982g (R5)	943g	924g	905g	886g

第4章 環境を守り人と自然が共存するまち（環境）